

第15回 市民動物園会議

会 議 録

日 時 : 平成24年5月21日(月) 14時開会
場 所 : 円山動物園内 動物園プラザ

1. 開 会

○事務局（見上円山動物園長） それでは、定刻となりましたので、ただいまから、第15回市民動物園会議を開催いたします。

私は、4月1日付で動物園に参りました見上と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

簡単に自己紹介をさせていただきます。

3月まで交通局におりまして、地下鉄、路面電車の需要喚起を中心に仕事をしておりました。そういう意味で、市民サービス、お客様サービスという点では、共通する部分がございますけれども、動物園につきましても、種の保存や環境教育など専門的なこともございます。これから、しっかり勉強して頑張りたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

座って進めさせていただきます。

本日の会議の出欠ですが、松浦委員がまだいらっしゃっておりません。それから、鈴木委員につきましては、所用のため欠席というご連絡をいただいております。また、橋本委員、小山委員につきましては、所用がございまして、早目に退出されるということでございます。

2. あいさつ

○事務局（見上円山動物園長） それでは、開会に当たりまして、みどり環境担当局長の二木からごあいさつ申し上げます。

○二木みどり環境担当局長 皆さん、こんにちは。

私も、4月から名称が変わりまして、以前は環境局理事という職名でございましたけれども、みどり環境担当局長という名称に変わっております。

本当に忙しい中をお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

春、夏にかけて、いい気候になってきました。これからは動物園の書き入れどきではないかと考えております。

本日は、平成23年度の事業運営の内容と24年度の予算関係についてご説明しながら、忌憚のない中身のご意見をいただき、市民に愛される動物園を目指して、我々も頑張りたいと思いますので、いろいろなご意見、ご指導をいただきたいと思っております。

きょうは、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（見上円山動物園長） これ以降の議事進行につきましては、金子委員長にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議 事

○金子委員長 酪農学園の金子です。

今回も議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、第15回市民動物園会議の次第に沿って進めてさせていただきたいと思えます。

まず、次第(1)ですが、今お話のありました平成23年度運営状況報告です。続きまして、(2)平成24年度予算ですが、今回は、その他を含めまして6本ほどの議題がございます。できるだけスムーズに行くように議事を進めていきたいと思えますので、よろしくお願ひいたします。

まず最初に、(1)平成23年度運営状況報告について、よろしくお願ひいたします。
○事務局(見上円山動物園長) 私から、資料に基づきましてご説明させていただきます。

右肩に資料1-1と書いているものをごらんいただければと思えます。

まず、来園者の状況でございます。

左上の表をごらんください。

平成23年度につきましては、紫色の合計欄がございますけれども、79万1,754人です。その右に目を移していただきますと、平成22年度は83万2,419人となっており、昨年度に比べまして約4万人の減、率にしまして4.9%の減という状況でございました。

その辺の要因を月別にご説明したいと思えます。

平成23年度の欄の右にピンクと赤で色づけしているところがございます。これは前年度比になります。ピンクが22年度よりも増えた月、赤が減った月をあらわしております。22年度より少なかったのは、赤色になりますので、12カ月のうちの5カ月です。7カ月は22年度上回った状況でございますが、減り幅が大きかったということで、全体としてはマイナスになりました。

月別に見ていきますが、4月でございます。

4月1日に、ホッキョクグマの赤ちゃんのアイラを公開いたしました。同じく、4月23日には、は虫類・両生類館をオープンしたために、大幅な増となっております。それから、5月は、ゴールデンウィークを初めとしまして、週末の天候不順により、前年度を下回った状況でございます。

6月から8月にかけて増えておりますのは、5月のユキヒョウの出産を初めとして、ベビーラッシュが続いたということで来園者が伸びたところでございます。9月、10月は、5月と同様、天候不順が大きく、さらには台風やクマの出没などの影響もございまして、特に、団体客のキャンセルが多かった状況でございます。また、9月につきましては、22年度にこどもの国「キッドランド」を廃止したということで、その際に、遊具500円乗り放題キャンペーンを行いました。22年度の9月の来園者数を見ていただきますと、15万5,000人ということで、かなり多くなっております。その差が23年度に大きく出たといったところでございます。

右の表に目を移していただきますと、9月の時点で前年度比を赤く示しておりますけれども、前年度減に転じた状況でございます。

また、左の表に戻ります。

1 1月以降につきましては、増えております。これは、積雪も早くて、寒い冬ではありましたが、出足は好調でございました。特に、1月につきましては、北海道神宮への初もうでの際に動物園に立ち寄っていただくということで、正月三が日は入園料を無料としたところがございますけれども、こういったこともございまして、22年度を上回る結果となったところでございます。

ちなみに、正月三が日の3日間で1万人を超える入園があったところでございます。

それから、2月でございます。これは、雪まつりにあわせまして、スノーフェスティバルというイベントを行っております。平成22年度は、入園料をこの期間に無料としたことで大きな集客があったところでございますけれども、23年度は、通常どおりの入園料をいただき、有料といたしました。さらには、期間中、天候が悪かったということも重なりました、来園者数が大きく減少したところでございます。

後ほど、年度の行事等でご説明いたしますけれども、お客様に1年を通じて楽しんでいただけるように、いろいろなイベントを実施してきたところでございますが、先ほどご説明しましたとおり、天候不順やキッドランドの廃止などの影響が大きく、来園者数は22年度よりも減ったということで、残念な結果だったというふうに思っております。

次に、資料1-2をごらんください。

こちらは、経理の状況でございます。

前回の会議でもご説明したところではございますけれども、円山動物園の基本構想などにおきまして、持続可能な経営の考え方ということで、表1の入園料などの歳入、表2の人件費や施設整備費を除く経常経費、これらの収支均衡を図ることを目標としていることから、こちらの資料のような表立てで比較しているところでございます。

まず、歳入でございます。

表の右から2列目に平成23年度の決算見込みがございまして。入園料は、22年度より金額で見ますと36万4,000円の減、率にしまして0.2%の減という状況でございました。先ほど、来園者数の状況がございましたが、22年度に比べまして4.9%の減というお話をしました。これと比べまして、低い減少率になっております。これは、年間パスポートを中心とした有料の来園者数が22年度よりも多かったということでございます。

次に、広告料でございます。

こちらは、園内のガイドマップを出しておりますけれども、これを多言語化した際にサイズを小さくしたということで、広告スペースを確保できなかったことによりまして減少してしまったというところでございます。

それから、寄附金でございます。こちらは、個人からの寄附金は伸びておりますけれども、企業などからの寄附金につきましては、イベントに直接ご支援いただいているような状況もありまして、実質的には大きく減っているものではございませんけれども、イベン

トに直接ということなものですから、寄附金としてカウントされずに、結果として表のような数字になっているところがございます。

それから、公園使用料につきましては、先ほども申し上げましたけれども、キッドランドの廃止に伴う使用料の減でございます。

歳入を合計しまして、色づけをしておりますけれども、2億4,500万円ほどということで、22年度に比べまして約6%減少する見込みでございます。

次に、経常経費でございます。

まず、上下水道料でございます。これも、見た目は減っているように見えますけれども、実は、市役所の中の統一的なルールといたしまして、3月分の支払いが翌年度の4月に変更されたことによるものでありまして、実質的には前年度並みといった状況でございます。

それから、重油代等でございます。こちらは、原油価格の高騰と、現在、熱源転換中ということで、センターボイラーと個別ボイラーの両方が動いているということもございまして、結果として増加している状況でございます。

それから、電気代等につきましては、は虫類・両生類館のオープンや、夜のイベントなどの実施によりまして増加してございます。

維持管理費は、入札の結果、22年度を下回る額になったということでございます。

次のえさ代、薬品代でございます。こちらも、原油価格の高騰、さらには、東日本大震災の影響で、薬物などを中心に野菜あるいは果物の価格が上昇したということもございます。

それから、イベント・事務費でございますが、こちらは、節約執行に努めた結果、減少したという状況でございます。

経常経費の合計につきましては、約3億8,600万円ということで、こちらも22年度から率にして4%ほど減少する見込みでございます。

それから、一番下の歳入と経常経費の収支差でございます。23年度は、1億4,000万円ほどで、22年度に比べまして、支出は減っているのですが、それ以上に収入が減ったということがありまして、金額にして70万円ほど、率にしますと0.5%の減、赤字拡大という状況でございます。

なお、参考までに、下に米印で書いておりますけれども、人件費、施設整備費につきましては、こちらに記載のとおりでございます。

今後につきましては、来園者数の増は当然でございますけれども、広告、寄附につながるような積極的な営業を行いながら、歳入の増加を図ってまいりたいと考えておりますし、支出面につきましては、高圧洗浄機の導入などによりまして、水道使用料を節減する、さらには、維持管理、委託費につきましては、一般競争入札の拡大などを進めることによりまして、経費圧縮を図ってまいりたいと考えております。最終的には、動物園の基本計画の最終年度でございます平成28年度の収支均衡を目指して取り組んでまいりたいと考えてございます。

次に、資料1－3をごらんください。

こちらは、平成23年度の主な行事でございます。表裏の両面に記載しております。基本的には、22年度以前まで行ってまいりました行事を継続して行ってきたところでありますけれども、主なものにつきまして簡単に紹介させていただきたいと思っております。

まず、一番上の子育てサロンがございます。これは、皆様もご存じかと思っておりますけれども、親子で参加し、かわいい動物を見ながら子育て中のお母さんたち同士が情報交換や交流をしようという事業でございます。これは、場所貸しになりますけれども、毎月、開催されまして、多いときでは100名を超える参加がある行事でございます。

それから、その七つ下のSmoothie Zoo Nightというものがございます。こちらは、閉園後の動物園を貸し切ってもらいまして、いやしをキーワードに食事を楽しみながら飼育員のトークセミナーなどで楽しんでもらうものでございます。こちらでも場所貸しでございます。

その五つ下にハーティナイトがございます。こちらは、障がいのある方、そのご家族や介護される方を無料でご招待しまして、夜の動物園をゆっくり楽しんでもらおうというものでございます。多いときでは500人ほどの方が参加されるイベントとなっております。

それから、次の夜の動物園でございます。こちらは、開園時間を午後9時まで延長しまして、夜の動物の姿を見ていただくものでございまして、夜だけの入園で4,000人を超える非常に人気のあるイベントとなっております。

その下のKids Zoo Townでございます。これは小学生を対象として飼育や園内の警備などの職業体験ができるイベントでございます。こちらは、親子で3,000人ほどの入園が見込めるものでございます。

それから、一番下に、円山動物園ファン感謝祭がございます。こちらは、パネル展、トークイベントなど、お客様に楽しんでいただきながら、動物のことを深く理解してもらおうというイベントでございます。こちらは、動物園、さらには動物園ファンとともに実施しているイベントでございます。昨年度につきましては、3日間で1万3,000人を超える来園がございました。

それから、裏面をごらんください。

上から六つ目の冬の裏側探検という行事がございます。これは、11月、12月、1月は、ほかの月より1時間早く閉園しますけれども、職員はおりますので、閉園後の時間帯を利用しまして、1回につき先着20名という限定ではありますが、獣舎のバックヤードなどをご案内するといったイベントでございます。

また、一番下の行事でございますが、円山動物園感謝デーがございます。これは、1年のご愛顧に感謝の意を込めて開催しているものでございまして、飼育員のほか、ボランティアみずからが屋台形式のブースを出しまして、お客様をおもてなしするイベントでございます。こちらは、昨年の開園60周年を記念いたしまして、新たに取り組んだものでござ

ざいます。

このように、限られた予算の中で工夫を凝らしながら、また、企業や団体などのご支援をいただきながら地道に取り組んでいるところでございます。

23年度の運営状況の説明につきましては、以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、23年度の運営状況報告につきまして、ご質問等がございましたらお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 そのほか、ご意見等がありましたら、お願いいたします。

○牧野委員 一つだけ確認です。

夜の関係のイベントがありますね。そのときは、飲食店関係は全部閉まったままですか。

○事務局(影山経営管理課長) 開けております。さらに、去年は、夏の期間、ズーガーデンという飲食ブースを特別に設置しまして、ビールも飲める屋台も出しております。夜なので、蚊が多く、ゆっくりしていただけたかどうかはわかりませんが、割とご好評でした。

○金子委員長 そのほかございますでしょうか。

○高井副委員長 今年度の予算について、イベント事業費ですが、去年と比べて25%減で、過去7年間で一番低く見積もられていますね。恐らく、ほかの予算と比べて圧縮できるところはここしかないということで、収支均衡のためにこうなったと思うのですが、アジア・アフリカゾーンなど、新しいものに打って出るのに十分な費用をとられているのでしょうか。

○事務局(見上円山動物園長) 先ほどもご説明しましたけれども、いろいろなイベントなどに企業、団体から直接ご支援いただいているようなケースもございまして、その部分はこちらの表の中には見えてこない状況になっております。後ほどご説明しますが、24年度も引き続きご支援をいただきたいと思っております。アジアゾーンは目玉になると思いますので、積極的に、早目に露出をしていきたいというふうに考えております。

○金子委員長 そのほかございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 何かありましたら、最後の方でお願いできればと思います。

続きまして、2の平成24年度予算等についてお願いいたします。

○事務局(見上円山動物園長) 平成24年度予算でございます。

まず、1の予算でございます。

動物園の運営管理費につきましては、動物園の経常的な経費でございまして、約4億7,200万円を計上しております。それから、次の動物園整備費でございまして、これはまさに施設、設備にかかわる経費でございまして、約11億2,000万円の予算を

計上してございます。合計で約16億円という規模でございます。

先ほど、平成23年度の経理状況のご説明の中に、24年度の数字が出ていたかと思うのですが、若干違います。その差は、こちらの24年度の動物園運営管理費の中に、臨時職員の賃金や職員の時間外手当のようなものも人件費として一部含まれているためでございます。

次に、2の入園者の目標でございます。

23年度に比べますと21万人の増で、100万人という目標を設定してございます。きのうはよかったのですが、4月、5月と苦戦しております。100万人という目標の達成に向けて頑張りたいと考えてございます。

それから、3の主な施設でございます。

まずは、アジアゾーンの建設です。こちらは、今年の9月末の竣工を予定してございます。その後、動物の移動などを行いまして、年明けの1月までにはオープンする予定です。入園者数を少しでもふやすということもございまして、できるだけオープン時期を前倒しできないかということで検討しているところでございます。

さらに、遊具広場の建設ということで、西門の横に建設予定でございますけれども、こちらは、この夏に着工いたしまして、オープンは来春になる予定でございます。それから、アフリカゾーンの建設、設計ということで、設計に着手しておりますけれども、27年春のオープンを予定しております。

簡単ではございますけれども、平成24年度の予算につきましては、以上でございます。

続きまして、資料2-2をごらんください。

こちらは、平成24年度の主な行事でございます。

先ほどご説明しました23年度の行事をベースに組んでおります。ただ、これまでやってきたからといって、同じことを継続して行うのではなくて、当然、スクラップ・アンド・ビルドも行いますし、既存事業につきましても、工夫、改善を加えながら、個々の行事の魅力を高めて、入園者の増につなげてまいりたいと考えてございます。

前回の1月の市民動物園会議の中で、皆様からお話がございましたけれども、子どもが中心になるかと思いますが、それ以外に新規の客層をターゲットに置いた仕掛けなども加えながら、入園者増を図ってまいりたいと考えております。

例えば、資料の真ん中ほどにございますが、先ほどもご説明しました夜の動物園がございます。カップルにもっと楽しんでもらえるような企画なども考えております。いずれにしても、ターゲットを変えながら、毎回違った楽しみを演出することができないか、現在、具体的な検討を進めているところでございます。

それから、夜の動物園の五つ下の円山動物園秋まつりがございます。これは、この9月、10月ぐらいの時期に複数の行事を実施してございましたけれども、秋まつりということで一本化した上で、内容の充実を図って実施してまいりたいと考えてございます。

それから、下から四つ目のアジアゾーンオープン記念イベントがございます。先ほどご

説明しましたが、竣工が9月末ということで、動物が入る前に、プレガイドツアーと申しますか、動物が獣舎に入る前の見学ツアーみたいなものを企画しているところでございます。

裏面になりますが、広報でございます。これまで実施してまいりました広報となると思っておりますけれども、私どもが担当しております動物園だより、さらには、広報さっぽろ、新聞、テレビ、ラジオ、ホームページなどを通じまして、これまで以上に積極的に情報を発信してまいりたいと考えております。また、現在、試行的に実施しておりますT w i t t e rやF a c e b o o k、Y o u T u b eといったものを活用しながら、今後、積極的に広報してまいりたいと考えております。

平成24年度の関係につきましては、以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

それでは、平成24年度の予算と行事とありますけれども、まず、予算につきまして何かございましたらお願いしたいと思っております。

○橋本委員 質問です。

先ほど聞き逃したので、もう一度教えていただきたいと思っております。経理状況の経常経費の黄色いラインのところの平成24年度の予算で、4億512万円に対して、こちらは4億7,200万円ですが、その違いは何とおっしゃいましたか。

○事務局（見上円山動物園長） 職員の時間外手当や臨時職員、非常勤職員の賃金が4億7,000万円の方に含まれております。また、事業内容に書いておりますけれども、教育普及事業の展開、野生動物復元事業、さらには、大型動物の導入調査といったものも平成23年度の4億512万円の中には含まれておりません。

○橋本委員 過去8年間の経常経費は、4億3,000万円が最高ですけれども、さらにそれを4,000万円ほど上回ることになるのですか。

○事務局（二木みどり環境担当局長） 区分けが違うのです。

実は、こちらの経常経費と説明しているものは、経常的にかかる費用をまとめて計上しているのですが、こちらの予算案の中で言う運営管理費は、議会に報告している数字です。議決を得る上での数字です。その中には、先ほど言いました人件費も含めた数字で報告しているのです。ですから、過去17年度からの分も、実はこれ以外に人件費相当分が上積みされて議会に報告されております。そういう意味では、若干違っている面があります。

○事務局（影山経営管理課長） 済みません。次回以降は、わかりやすい資料に修正したいと思っております。

○事務局（見上円山動物園長） 同じような費目で数字が違うのはわかりづらいので、この辺は修正させていただきます。

○小山委員 両方とも、動物園の経費というか、予算という枠組みでやっているのですね。ですから、まとめると同じなのですね。

○金子委員長 ほかはいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 ないようでしたら、次の平成24年度の主な行事に関して、ご質問やご意見をお願いしたいと思います。

○中山委員 なくなったイベントと継続するイベントの基準は何かあるのですか。

○事務局(影山経営管理課長) 基本的には、平成23年度、24年度の事業は、ほぼ同じものを並べているかと思います。ただ、先ほど申し上げましたように、9月、10月あたりでは、イベントが減ったように見えるのは、動物園秋まつりというところに9月、10月あたりの幾つかのイベントを集約して、拡大して開催しようということでございます。

正直に申し上げますと、昨年9月のいのちの感謝祭というイベントは、期間も長く、非効率だった部分があります。そのため、集客としてもどうなのかということがあったものですから、これを10月のイベントと合体して、魅力をアップして、効率的に運営しようというねらいです。

○中山委員 こうなったらもうやめなければという判断材料がどこかに明確に設けられているのか。継続することで力を発揮するものもあるので、一概には言えないと思うのですが、こうだと翌年はもうやらない、この基準をクリアすれば、もう少し継続してみようかという基準はあるのかということです。

○事務局(影山経営管理課長) 今の時点では具体的な基準は持っておりません。ただ、主要なイベントにつきましては、毎回、参加者にアンケート調査を行いまして、効果などを見ながら判断していきたいと思っております。

○中山委員 また、震災チャリティーイベントはなくなってしまっていますね。避難されてくる方は、今も続々と来られると思いますし、ことし、大きく市の政策として発表されていたので、新しく来られる方が動物園を知るとは結構大事だと思ったのです。ですから、今後住まれる候補の方だと思うので、大震災関係のイベントが消えてしまったのは、理由があったのかと思ったのです。

○事務局(影山経営管理課長) これは、チャリティーイベントと書いておりますとおり、このイベントをきっかけにご来園された方に物販などを行いまして、売り上げの一部を寄附するということが一つの目的でございました。それは、現時点では、日本動物園・水族館協会にまだ義援金の箱が置いておりまして、それで継続しているという形にさせていただいております。

○中山委員 イベントとしては、なくしたということですね。

○事務局(影山経営管理課長) そうです。

あとは、動物園の宣伝用のパンフレットをつくっているところですが、こういったものを、まさしく委員がおっしゃられたように、区役所の窓口に置きまして、転入手続に来られた方に見ていただいて、動物園に来ていただくという仕組みをつくろうかということで進めております。

○中山委員 わかりました。

○金子委員長 ほかはいかがでしょうか。

○小山委員 全く新規の行事は、特にないのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 新規でいいますと、10月から12月のアジアゾーンのオープン記念イベントです。全くの新規ということであれば、その1点になります。

○事務局（見上円山動物園長） ただ、こちらに記載はしていませんけれども、具体的な企画内容がまだ固まっていないものも幾つかあります。それは、その都度、ご報告したいと思っておりますけれども、新規のもので検討している行事はほかにもございます。

○小山委員 素人考えですけれども、アジア館のオープンが冬場というのは、何となく、もったいないような気がしますね。

○中山委員 確かに、暖かいイメージですよ。

○小山委員 寒くない時期にオープンイベントをどんどんやると、集客にプラスになるかと思うのです。これは、予算の執行に関係しますけれどもね。

事務局（見上円山動物園長） 工期の関係でどうしても9月末になるということで、本当はもっと早められればいいのですけれども、なかなか難しいということです。また、実際に建物自体はでき上がるのですけれども、中をつくり込んだり、動物を移動させて、獣舎にならずことが必要になります。その辺をある程度圧縮して、できるだけオープンを早めたいということはあるのですが、どうしても冬になってしまうのです。

○小山委員 本格オープンを春先まで延ばして、途中の経過ということでいろいろなイベントを打って行って、春先の一番人が来そうなときに本格的なオープンイベントをやる方がプラスになると思ったのです。役所の予算の使い方として、そういうわけにはいかないのですか。

○事務局（影山経営管理課長） やはり、市民の貴重な財産だと思っておりますので、オープンして隠しておくことはなかなかできないです。実際に、動物の移動が始まってしまいますと、古い施設で動物が見られなくなってしまいますので、その期間もできる限り圧縮しなければいけません。

○小山委員 動物園の作業としては、スケジュールどおりやればいいのですけれども、イベント的に言えば、オープンデーを春に持って行って、それまでは移動期間という形でのイベントをぼんぼんと打っていった方が、同じお金を使うのなら、得なのではないかということですか。

○中山委員 今おっしゃったみたいに、継続しているのだけれども、内容はちょっと変えようと検討しているイベントはあるのですか。同じく継続しているのだけれども、赤字だったから何か工夫しなければと検討しているなどですね。

○事務局（影山経営管理課長） 一つは、先ほど申し上げた夜の動物園です。昨年までですと、開園時間を延長して、昼間にやっていますみんなのドキドキ体験というメニューを夜もやっております。今年は、さらに、毎週土曜日にありますので、各週それぞれで何かテーマを持って、例えば7月28日はカップルデーとしてカップルの人が楽しめるような

企画をつくるとか、何月何日は星の観察デーとして、移動天文車を呼んで、みんなで星を見たり、各回で楽しめるようなメニューを考えたいと思っています。

また、秋まつりは、イベントをいろいろとくっつけながら新しいものをつくり上げていきたいと思っていますので、中身については少し変わってくるかと思っています。

そして、干支の特別展も毎年変わりますので、内容は変わってきます。ここに載っていないもので検討中のものもあります。例えば、平成23年度で申し上げますと、冬の裏側体験です。これは、冬場の入り込みが少ないということもありまして、飼育員たちが一緒になって考えているようなメニューですので、今年の冬は何をやるかということでやっております。そういう意味では、ことしも新しいメニューができてくるかと思っています。

○事務局（見上円山動物園長） これに項目としては直接出てきていないですけども、ドキドキ体験も、メニューとしては30以上あります。ただ、定番化されているメニューが少ないのが実態です。例えば、そのような定番メニューを増やしていく、あるいは、同じカバのドキドキ体験にしても、やることを変えてみるなど、そんな工夫もしていきたいと思っています。

また、カンガルーの散歩なども、現状、頻度としてはそんなに多くはないと思うのです。その辺も、より多くの方に見ていただけるように定番化するというのも考えております。

○中山委員 発表のときに、新しいものがあるのが見られるといいと思いました。毎年のもではなくて、違う書き方ができれば、新しいことをやるのだと思ってもらえればいいと思いました。

○牧野委員 入園者の目標数も、単年度で21万人と、単純に言ったら、1カ月で約2万人増やさなければいけないわけですね。そうすると、従来のパターンで行って、果たして達成できるかという問題にもなりますね。天候など、要因もいろいろとあると思いますけれども、そういった部分で、手を変え品を変えながらも、それが新しいのだという雰囲気を出さなければならぬでしょうね。

○事務局（見上円山動物園長） そのためには、今までやってきていることを単純に継続するだけでは、人手が幾らあっても足りないという感じなので、先ほど、具体的な、明確な基準はあるのかというお話がありましたけれども、スクラップ・アンド・ビルドではないですが、既存事業については見直しをかけて新しいものを打っていくということも考えていきたいと思っています。

○原田顧問 2009年ですか、平成21年の入場者が92万人まで行ったわけです。そこから、83万人、79万人というふうにながっている傾向にあります。この92万人あたりのころのイベントのバリエーションとか、そのときのニューイベントがどれぐらいセットされていたのかとか、ここから下り坂になった原因があると思うのです。動物園の入園者は、ただ見に行くというよりも、どうせ行くならイベントのある日に行こうとか、よく見て来られていると思うのです。特に、リピーターの方はそうだと思います。同じであ

れば、違う日に行こうというように、新しいイベントを子どもたちに見せてやりたいということが皆さんの考えることではないかと思うのです。

そういう意味では、先ほどイベントのことがいろいろ話題に出されていますけれども、私も全くそうだと思うのです。それから、園長の言われるように、同じことをやってもだめだろうと思います。ホームページでも、記事の欄が更新されているときには、「New」という言葉がきちんと書かれて点滅するぐらい、フォーカスを当てるような工夫も必要なのではないかというふうに思うのです。

そういう意味で言うと、昨年度のイベントの数が45ぐらいあって、今回は33まで減っているというのは、あれっという感じがするのです。こういう長期的というか、今年度のプログラムがどこかで表示されるのであれば、10月以降のアジア館など、細かい内容はそんなに記載できないかもしれないけれども、この辺にイベントを置くというぐらい、早目にセットしておく必要があるのではないかと思います。そうすると、みんなは、それを楽しみに、待つ人は待っているし、予定する人は予定ができるだろうと思うのです。ですから、一人でも多くの人を集める工夫が少ないのではないかと思います。

私は、イベントを少なくすると、確実に客数は減るのではないかと考えていまして、今までの努力というのは、イベントを一生懸命工夫して、作り出してきた歴史があったのではないかというふうに思います。

その辺を何とか考えていただければうれしいと思います。

○金子委員長 ありがとうございます。

ぜひよろしく願いいたします。

私からも質問させていただきたいと思います。

先ほど園長から、広報では、ホームページのほかに、Twitter、Facebookというお話がありました。人を集めるためには、広報がかなり重要だと思うのですが、例えば、予算的に、今年は特別に少しふやしているとか、こういう新しいことをやりますということは、先ほどのお話以外にも何かございますか。

○事務局（見上円山動物園長） 予算的に広報経費ということでは組んでおりません。

○事務局（影山経営管理課長） 特別、増額しているようなものはないのですけれども、従来から、基本的には、運営費なりに予算がついていないという現状がございます。そこで、私どもがとっている広報戦略は、取材してもらうということが一つのやり方です。ですから、私どもの情報をプレスリリースなどを使って、いかにうまく発信していくかというのが一つのやり方です。

○中山委員 Facebookはあるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 今、試行しているところです。ブログやTwitter、Facebook、また、YouTubeなどは、試していろいろとやっているところです。

それから、ことしの新たな取り組みとしましては、そういうお金がない中で、各企業が

ら支援、協賛をいただいて、新しい広報のやり方を調整している段階です。

○金子委員長 企業から寄附金なりの形で入りますが、そういうお金がどういうふうに使われたかということは、企業に情報としてお返しするのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 公表する予定にしております。

○金子委員長 人を集めるのもそうですけれども、お金をうまく集めてくるところの戦略も重要かと思います。いわゆる、企業のCSRです。今、企業は各部門を持たれていると思うのですが、動物園にお金を出しやすいような雰囲気をつくるというあたりを少しプッシュして行って、収入自体も増やしていくと。なおかつ、社員などに動物園に来ていただくような雰囲気づくりが重要なのではないかという気がするのです。その辺で、対企業のアイデアはありますか。

○事務局（影山経営管理課長） まさしく、営業用のパンフレットを作成しているところですが、そういったものを使いながら、具体的に営業をしていこうかと思っています。イベントをするなり、PRをするときにも、お金が必要なものですから、それをご協賛いただくという形です。

○金子委員長 そのほかございますでしょうか。

○野村委員 今の企業の広告や協賛金を得るような話で、前にもご質問させていただいたのですが、動物園で営業をするのは限界があると思うので、広告代理店等に積極的にPRして、代理店から話を持ってきてもらうということは考えていらっしゃるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 一緒に活動させていただいています。

例えば、最近の例ですと、このイベントには載っておりませんが、代理店と共同で、JRAと共同でイベントするような動きもほぼ確定で出てきております。また、先ほど、PRと申し上げたのは、飼育員のブログをフリーペーパーにして、いろいろなところに置いたり、手配りしたりするようなPRの仕方も広告代理店と一緒に営業をしながら、検討を進めているところです。

○金子委員長 そのほかによろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○金子委員長 それでは、3番のゴールデンウィークの来園者数について、説明をお願いいたします。

○事務局（見上円山動物園長） ゴールデンウィークの来園者数でございます。

まず、この表は、今年と昨年の日数のとり方が違っております。

私どもで行っておりますゴールデンウィークに合わせた春まつりというイベントがありますけれども、そのときの来園者数をカウントして、比較しておりますので、ことしは4月28日から5月6日、去年は4月29日から5月5日ということで、日数が若干異なつての比較となっております。しかし、ことしは日数がふえたにもかかわらず、トータルで5万7,816人ということで、昨年に比べまして6,300人ほど減っておりますし、率にして10%ほど減少したという状況でございます。

天気という欄があります。前半は比較的天気がよかったのでございます。ただ、その割には来園者数が期待したほど伸びなかったという状況でございます。後半につきましては、雨のため、かなり苦戦した状況でございます。

右側に旭山動物園とあります。旭山動物園につきましては、例えば、5月4日、5日を見ていただきますと、ほかと比べても、そんな大きく落ち込んでいる状況ではございません。一方、円山動物園につきましては、5月4日を見ていただきますと、1,416人ということで、大きく落ち込んでおります。円山動物園の来園者につきましては、約7割が市民ということに対して、旭山動物園につきましてはツアー客が大半を占めているということで、こういった差が出ているのかなというふうに思います。

これは、あくまでも参考ではございますけれども、円山動物園の人数のところは赤く網かけしている部分は、旭山動物園と比べて多かった日となります。

次に、資料3-2になります。

こちらは、期間中のイベントの状況でございます。

イベントにつきましては、例年行っております内容を実施したところでございます。

2の(2)みんなのドキドキ体験がでございます。これは、これまで、ゴールデンウィーク期間中には実施しておりませんでしたけれども、今年は、混雑整理のために職員を増員するなどして対応するというので、ゴールデンウィーク期間中としては初めて実施したところでございます。

それから、5月6日の1日だけではございましたけれども、(5)の動物園の森の一般開放を行いました。途中、にわか雨で一時中断ということも余儀なくされましたけれども、370名もの方に見学していただいたという状況でございます。

4のその他でございますけれども、フォトスポットの設置です。ホッキョクグマのオブジェとともに、記念写真が撮れるということで、これを新設しました。また、(2)です。駐車場待ちで非常に混雑しますので、渋滞緩和対策ということで、ばんけいスキー場と連携しまして、スキー場に臨時駐車場を設けていただきました。その結果、動物園側の駐車場の渋滞対策としては非常に効果があったと考えております。

ゴールデンウィーク関係の説明は、以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

ゴールデンウィーク期間中のイベントの実施について、ご質問等はございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 続きまして、4の基本計画の改定状況について、よろしくお願いたします。

○事務局(影山経営管理課長) それでは、私から説明させていただきます。

前回の第14回会議では、基本計画の概要についてご説明させていただきました。そのときのお話としましては、今後、札幌市役所の内部で調整を行いたいということで、スケ

ジュールも合わせてご説明させていただきましたが、その後、庁内の調整が進んでいないのが現状でございます。特に、財政面では、新規の施設建設に関して、財政当局から指摘がなされるという状況でございます。内容をもう少し練り直して、再度、調整をするようにということがございまして、今、内部で再検討しているところでございます。

この後、7月以降に庁内の調整を始めまして、何とか平成25年度の予算には間に合うように内部調整を行い、あるいは、パブリックコメントで市民意見も求めていきたいと思っております。

今回の第16回市民動物園会議の中では、進捗や具体的な内容についてご報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

次のページに、前回の第14回市民動物園会議では、特に基本計画に関して皆様からご意見をいただきましたので、そのご意見、動物園としての考えをまとめました。字が小さくて恐縮ですが、ご説明させていただきたいと思っております。大きく7項目について、皆様からご意見をいただきました。

まず、1項目めは、若年層の取り込みについてです。

大きく3点のご意見があったと思っております。1点目は、旭山動物園のように、観光やデートの場所として若者が来園する仕掛けや施設を整備する。2点目は、年齢別のイベントや高校生、大学生向けのメニューがあってもいいのではないかと。3点目は、スマートフォンでTwitterを見ている若者が、リアルタイムで動物園情報を入手し、動物園に行きたくするような仕掛けをすべき。こういう3点のご意見を主にいただきました。これは、動物園としても考えていることで、基本計画に反映させるかどうかという観点で考えをまとめております。

まず、1点目と2点目につきましては、前回説明しました内容に、こういうふうに書かれております。大人も子どもも楽しめる動物園を目指し、Smoothie Zoo Night、一日飼育体験、恋人たちのクリスマスナイトZOOなど、年齢層別のイベントを実施しております。今後も、参加者の意見などを踏まえ、内容充実を目指すということです。このように基本計画に掲載されておりますので、いただいたご意見につきましては、計画を修正するというのではなくて、この中でいかに実施していくかということで対応させていただきたいと思っております。

それから、施設整備に関しましては、先ほど申し上げましたようなことで、新規施設の建設が非常に難しい状況ではございますけれども、この後、アフリカゾーンなどでも食事スペース、レストスペースをつくる考えもございまして、その施設のデザインなり、ソフトの方でご意見を反映していきたいと思っております。こちらについては、基本計画に掲載済みということでご了解いただきたいと思います。

それから、3点目のスマートフォン、Twitterです。これも先ほどご説明しましたように、現在、Facebook、Twitter、YouTubeを活用した情報の広がりなどを検証中でございます。この効果を踏まえまして、積極的に活用していきたい

と考えております。

こちらは、当初予定していた基本計画の見直し案では、ニューメディアを活用し、積極的にPRしていくというふうには書いてございますけれども、具体的にこういうような単語も散りばめながら基本計画の見直しを進めたいと思っておりますので、括弧書きのように、基本計画に強化掲載予定と書いております。

それから、大きな2点目の成果指標の設定についてです。ここでは、3点のご意見をいただきました。1点目は、費用対効果をより明確にすべき。2点目は、人件費や施設整備費の費用対効果を検証できる指標を設定すべき。3点目は、担当者の頑張りが見える指標を設定すべきということです。これらは、成果指標の設定ということで、包括的に書かせていただきました。私どもの考えとしましては、基本計画の中に大きく取り上げる指標につきましても、その項目ごとに特徴的な指標を、すべての事業ではなくて、大きく何点か掲載したいと考えております。一方で、皆様からご指摘をいただきました各事業ごとの個別の具体的な成果指標につきましても、私どもの新しい基本計画の中では、事業評価シートを作成しまして、毎年、個別の目標を設定し、検証していくという作業をしたいと考えておりますので、こちらで個別の事業について目標を立てて検証していきたいと考えております。これについて、事業評価シートで評価するということ自体は、基本計画に掲載済みですので、計画はそのままとさせていただきたいと考えております。

なお、指標の設定に当たりましては、ご意見が三つありましたが、これを踏まえた内容としたいと考えております。

それから、費用対効果の検証の部分です。これまでは、先ほどの資料1-2にありました経理状況は、ランニングコスト、歳入と経常経費での比較しかしておりませんでしたけれども、今後は、参考に書いておりますが、人件費や整備費を加えた形で市民の皆様へ情報公開をしていきたいと考えております。

次に、大きな3点目の業務委託費についてでございます。

業務委託費が支出の半分程度を占めているという大きなものなので、合理化できないかというご意見でした。こちらにつきましても、現在、指名競争入札が多いのですけれども、可能な限り、委託の事務の質を下げることがないように注意しながら、一般競争入札を導入していきたいと考えております。また、契約期間につきましても、可能なものについては、複数年契約にするなどにより、さらに支出の引き下げに努めてまいりたいと考えております。この点につきましても、このような表現で基本計画の案に強化をして盛り込む予定でございます。

続きまして、大きな4点目の動物説明看板についてでございます。

こちらについては、手書きでもいいので、増やしてほしいというご意見でしたけれども、デザイン性を考慮しながら、充実していきたいと考えております。それから、アジアゾーンにつきましても、液晶のディスプレイを配置しまして、動物の情報、世界の動物園における動物の種の情報、自然界での情報などを提供したいと考えております。これについて

は、基本計画に掲載済みですので、このままとさせていただきたいと考えております。

大きな5点目の暖かい施設についてです。

冬に暖かい施設が必要だというご意見がありました。昨年度は、第1レストハウスを改修し、断熱効果を上げております。これによりまして、これまで以上に、夏は涼しく、冬は暖かい施設になったというふうに認識しております。それから、アジアゾーン、アフリカゾーンを建設することによりまして、これまでよりも冬期間に暖かい場所でゆっくり見ていただけるものと考えておりますので、こちらも当初の計画予定どおりとさせていただきたいと考えております。

次に、大きな6点目のみんなのドキドキ体験、ふれあい体験についてです。

1点目は、ドキドキ体験は、できれば時間をつなげてほしい、全部に行きたい人は全部に行けるようにしてほしい。2点目は、ふれあい体験は、お金を取ってもいいから、いろいろなものがあったらいいというご意見でした。

1点目のドキドキ体験につきましては、基本計画に掲載済みですが、定番メニューの拡充となります。定番メニューというのは、何曜日の何時にやるというものですけれども、この数が少ないのが現状でございますので、少しでも時間帯や曜日がはっきりわかり、最初から予定できるようなメニューを増やしていきたいと考えております。また、ドキドキメニューの内容の充実も図ることを考えてございます。

それから、ふれあい体験につきましては、ご指摘のとおり、来園される方のニーズが非常に高いと認識しておりますので、ふれあいできる獣舎の拡大、ふれあい教室を充実していきたいと考えております。これらについては、基本計画の見直し案に掲載済みですので、このままとさせていただきたいと考えております。

最後に、園内の植栽についてでございます。

こちらは、シニア層をターゲットとして、園内を風のガーデンのように整備することはできないかというご意見でありました。やはり、動物園ですので、植栽にどこまでお金をかけられるかという根本的な議論もあるかと思えます。動物園は、今でもそうですけれども、桜をはじめ、ライラックなど、四季折々の木が楽しめるようになってございますが、これまで以上に、来園者が季節を楽しみながら散策できるように、花壇についても維持管理をしていきたいと考えております。こちらも、基本計画の案を強化する方向で考えております。

以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

今のご説明につきまして、ご質問等がありましたらお願いしたいと思います。

○石川委員 確認です。

意見についていろいろ検討していただき、ありがとうございます。

ゴールデンウィークには、私も行きましたが、雨が降っているときは、やっぱり寒かったです。誰もいなかったのです。1,400人となると、そうかなと思います。でも、前

半の暖かいときに滝野の某ふれあい動物園に、初めてだったのですけれども、行ってきました。ごめんなさい、すごく楽しかったのです。何が楽しかったかという、えさやり体験があるのです。だれもスタッフがなくて、黒いコップにスティックのニンジンが4本入って、100円もするのです。子ども2人で行って、1人2本ずつよと言いながら、最初は怖がっていたのですけれども、何種類も動物がいて、1,000円以上も使っていました。「お母さん、次は」と言われると、「いいわよ」と言ってしまうのです。でも、私も、見ているだけで楽しかったです。

こちらに、検討していただけるとは書いてあるのですけれども、円山動物園はただですね。モルモットもすごくかわいくて、あれにだったら何百円か払ってもいいかなと私も思うのです。ぜひ、お金を取ってでもいいからやってもらいたいと思いました。

キャベツは、5枚ぐらいで100円で、家から持ってくればよかったと思いました。それはだめなのですからね。それでも、ニンジンで勢いがついてしまっていると、払ってしまうのです。大人もだまされるなどという感じでした。でも、参加型というのは、このくらい大きいところでは大変なのでしょうけれども、ぜひ検討していただきたいと思いました。

また、先ほど気になったのは、旭山動物園は、ツアーの方がいるけれども、円山動物園は札幌市内の人だから、この人数でごめんなさいというのは、ちょっとどうかと思います。前に、冬のお話があったと思うのですけれども、円山動物園は札幌の人だけとあきらめないで、ツアー客を取り込めるようなすばらしい動物園だと思うのです。子どもが東京の方の動物園に行きたいと言ったときに、子どもは爬虫類が大好きなのです。そこで、調べたら、円山動物園に今回できたところはすごいのだと感じました。ジャパンスネークセンターというところがあるので、その次の次ぐらい爬虫類はすごく充実しているのです。円山動物園にヘビを見に行きたいという人は余りいないと思うのですが、マニアの人であれば、ヨウスコウワニはすごいものなのよと言う人はいっぱいいると思うのです。我々が、札幌市内でヨウスコウワニを見に行かないというノリにはならないと思うのですけれども、爬虫類館はすばらしい施設なので、ぜひ、もっとアピールすれば、集客できるのではないかと思います。

また、今、5月で年度が始まっていますが、主な行事がありますね。私は、会社には勤めていないのですけれども、どんなものなのでしょう。年度が始まっていて、年度内の予定ということはあるのですか。普通は、もう少し決まっているものではないかと思うのです。その辺は不案内ですけれども、もうちょっと早目に決めているものではないかというところが気になりました。

○事務局（見上円山動物園長） こちらに記載しております平成24年度の主な事業は、ここに書いてあるものは少なくともやるということです。これが24年度の事業のすべてということではないのです。24年度予算の編成時点で、来年度はこういうことをやりたいということで予算がつくのが本来の姿かと思います。そういう意味では、ある程度、枠

として予算を確保して、年度に入ってから、その中で具体的に検討していくことになっております。

ただ、少なくとも、ここに記載しているものはやります。

○金子委員長 ありがとうございます。

今、石川委員から出たツアー客の招致は、旭山動物園と比べたときに、大分違うところがあると思います。その辺で、ツアー客を呼び込むための仕掛けとして、今年は特にこれをやりますというものはないのですか。

○事務局（見上円山動物園長） 旅行代理店には積極的に営業活動をしなければならないとは思っております。

○事務局（影山経営管理課長） 先ほど申し上げましたPR用のパンフレットなども使いながら営業していこうかと思っております。ただ、旅行会社に広告料等を支払ってツアーを誘致している例もあると聞いております。また、駐車場の問題があります。団体の大型バスがとめられる駐車場スペースなど、私どもで準備しなければいけないところもあるかと思っておりますので、そういったところも検討課題としてはあるかと思っております。

○野村委員 結局、集客だけを考えるのなら、話は早いのです。

○事務局（影山経営管理課長） 市民動物園というスタンスとどうやって両立していくのかということもあるかと思っております。私どもが考えているのは、特に、4月から10月の間に85%のお客様がいらっしゃるので、その間は、もちろん市民動物園として市民の方に積極的にご来園いただきます。冬期間など、入園者がどうしても伸び悩みますので、特にアジアからのお客様が雪まつりなどに来られますので、そういう方々に来ていただくということも、すみ分けとしてはあると思っております。

また、来られる方に入ってはだめというふうにはいきません。団体だけではなく、個人の旅行者も非常に大事だと思っております。札幌に来て何をしようと思ったときに、動物園に来ていただくというような広報の仕方もあると思っております。

○石川委員 バスツアーや温泉ツアーのチラシなどがありますね。あれに必ず旭山動物園ツアーがあるのですけれども、円山動物園ツアーは余り見たことがありません。十分、そういうものに載ってもいい動物園だと私は思っているのです。今回も、新潟から親戚が来たときに、どこに行くのかと聞いたら、旭山動物園に行くと言うのです。どうして円山動物園に行かないのかと思っております。もちろん、札幌に親戚が集まるので、円山動物園にも来るのですけれども、小学校低学年のお孫さんを連れて旭山動物園に行くと言われると、私はすごく残念だなと思ったのです。

それは、旅行会社にお金を払えば、そういうツアーを組んでいただけるものなのでしょうか。

○事務局（影山経営管理課長） お金が入るのであれば、旅行会社も積極的に企画するのだと思います。

○金子委員長 今、市民動物園というお話が出ましたけれども、市民、特に札幌市内の小・

中学生に対しては、教育委員会でいろいろとされるのですか。どれぐらいの子どもたちが動物園に来るものなのでしょうか。

○事務局（影山経営管理課長） 小学生以下ですと、年に1回は来ているような計算になるかと思います。

○金子委員長 市内の小学生はどうですか。

○事務局（影山経営管理課長） 学校単位で来るという例は余りありません。例えば、小学校2年生が地下鉄の乗り方を勉強しながら、動物園に来るとか、総合学習で動物園に来て勉強するなど、学年単位が多いかと思います。そうすると、子ども全員が来るわけではありませんが、それ以外に、通常に来られている子どももいらっしやって、トータルで見ると、年に1回ぐらい来ているような感じだと思います。

○金子委員長 延べ人数でということですね。全然来ない子もいるということですね。

○事務局（影山経営管理課長） そうです。

○金子委員長 学校にアピールするということは特にはないのですか。

○事務局（影山経営管理課長） ホームページの中で、教材も開発しておりまして、それをダウンロードして、先生が授業で使えるようなものなど、修学旅行用の教材もありますし、準備はしていますので、これも今年は教育委員会にも営業をしていきたいと思っていますところですよ。

○事務局（見上円山動物園長） 例えば、単発のイベントでは、この間、春まつりをやりましたけれども、そういうイベントのPRはやっているのです。小学校全校にチラシを配り、児童一人一人に行き渡るようにしております。

○事務局（影山経営管理課長） 四半期に1回、動物園だよりを作っておりますし、小学生全員に配付しております。その他、動物の情報、環境教育の情報、イベント情報を伝えております。

○野村委員 例えば、大型バスに乗りつけて、ばーっと来るよりも、この間、冬に来たときに、個人で案内する人だと思えるのですけれども、違う言葉の方が五、六人を連れてきていたのです。園内に入ったら、まずはホカロンを渡して、はい、廻りますとやっていたのです。私たちが海外に行っても、オプションツアー、どこどこめぐり3,000円というものがありますね。ああいうふうに、バスで来ないで、円山動物園に何時に集合して、10人以上になったら、入園して、お茶でも飲んで2,000円ということです。これは、だれかが代行しなければいけないのでしょうかけれども、今だと不景気だから、そういうことをやろうと思う人もいないのではないかと思うのです。

そうすると、駐車場の問題もないし、地下鉄も使うと思いますし、そういうものがあつたらいいと思う人がいるのではないかと思うのです。円山公園の地下鉄からの案内板は、去年から見ると、随分よくなったと思うのです。わかりやすくなったとは思いますが、緑道を通して歩いてくるのは、初めての人にはやっぱりわかりにくいと思うのです。どこで信号を渡るか、はっきり一つではないのです。大自然を満喫しつつ、動物園まで歩

いて、足の丈夫な人ではなければ難しいですけれども、そういうツアーがあったらいいなと思います。札幌市内に、観光するいいところが余りないので、自然を楽しんで、動物園も楽しんで、駅まで帰るといったものがあっていいと思うのです。

また、この間、4月に来たときに思ったのですけれども、アンパンマンなどがついた石のベンチがありますね。あそこで、おばあちゃんがお孫さんを連れてきて、アンパンマンに座らせて一生懸命写真を撮っているのです。今、子どもを連れてきても、とにかく写真なのです。ああいうベンチもこういう用途ですごく使われるのだと思いました。また、マルヤマンと一緒に撮るとか、あちこちにありますがね。あれがすごくたくさんあったら、きっと全部を撮って帰りましょうとなると思うのです。そうすると、1周すると動物園を全部回って、アルバムができますというのも、お金がかからないで、売りになるのではないかと思うのです。とにかく、皆さんが写真スポットを探している感じでした。

○石川委員 旭山動物園には、自分で写真を張るアルバム形式のものがあるのです。円山動物園でもぜひ作ってみたらどうでしょうか。

○野村委員 顔を出すものも、そればかりを訪ね歩いている人もいるそうですよ。

○石川委員 私も全部撮りました。

○野村委員 私は、ああいう趣味がないので、子どもにもさせてことはないけれども、こんなに需要があるのだなと思いました。それが全動物にあったら、皆さんもすごく頑張って撮るような気がしました。

○金子委員長 ありがとうございます。

そのほか、よろしいでしょうか。

○高井副委員長 3点あります。

まず一つは、資料4-2の意見に回答いただきまして、特に、2や3に回答していただいて、ありがとうございます。

追加として申し上げるとしたら、この辺の話は、私も前に札幌市の行政評価委員や事業仕分け人をやったときに、ほかの事業のときに当然要求されるものを、動物園でも求められなくても、やっておいた方がいいのではないかと思います。中山委員の言い方で言うと、成果が上がったもの、コストパフォーマンスがよかったものについては、次回からもちゃんと続けて、予算をもっと増やすとか、余りうまくいかなかったものはやめるなど、基準をちゃんとつくった方がいいのではないかと思います。どんぶり勘定的なもので、とにかく入園者数を何万人増やすと力んでも、精神論では動かないです。ですから、うまくいっているところを伸ばし、うまくいかないところを変えるという当たり前のことをやるべきではないかということが私の言いたかったことになります。

2番目には、資料4-1の施設の基本計画の改定の話です。

これは、いろいろとごたごたしておりますが、ピンチであり、チャンスだと思うのです。ピンチとしてのお話は、私は、札幌市の行政評価もやったのですが、施設評価をやったのです。その感覚だと、新しい施設をつくったときには、幾らかかって、かけたお金が市民

の役にどのくらい立っているのか。そうすると、市民1人当たりの費用は幾らになっているかなど、そういうところで指標化されていくわけです。前に、基本計画の過去のものを見せさせていただいたところ、新しい施設を改修したり、作った後に、入園者は全然増えておらず、むしろ下がり続けております。何億円もの施設費をかけながら、入園者が下がってしまうと、認められなくなると思うのです。もう既に、は虫類・両生類館を何億円もかけて建てたのに、入場者がまた下がったということになると、施設評価の観点からすると、何だこれはということで、どんどんと危なくなってきます。今度出てくるアジア館に何億円かけたのに下がると、結局、市民の税金から来て、何人しか動員されていないではないかということだと、厳しくなると思うのです。その点では、ピンチだと思います。

チャンスは何かというと、今回来た見上園長にしても、影山課長にしても、集客と経営立て直しのプロを札幌市は送り込んでいるのです。そこに、てこ入れしようというのは、本気なのだと感じるわけです。しかし、行政組織だと、着任したときには全部決められてしまっていて、言われたものをやるしかないということになると思うのです。ですから、こういう再編のときこそ——厳しい状況で、幾ら増やすのだ、何だと言われると思うのですが、今こそ、経営的なものを生かして、今度出てくるアジア館、まだ修正の余地のあるアフリカゾーンを何億円に相当する集客効果が出るような改革をやるとしたら、今がチャンスではないかと思います。

いろいろなアイデアがあり得ると思うのです。先ほど、スタンプで全部を回るという話をされていきましたね。例えば、デパートだったら、イタリアフェアや何とかフェアをやりますね。今回みたいに、は虫類館など、系ではなくて、ゾーンでやるというのは、新しい発想です。デパートのような、アフリカウィーク、アジアウィーク、上の方だとクマウィーク、真ん中辺では猿ウィークなど、そんなふうに順繰りで回していくと、イベントというほどではなくても、新聞やテレビなどで、円山動物園でアフリカウィークが始まりましたということ、ニュースにもなりやすいです。

お金をかけずに回す方法は幾らでもあると思うので、ぜひチャンスを生かしていただきたいというコメントです。

○金子委員長 ありがとうございます。

○野村委員 先ほどの写真で言えば、サタデーテーリングは、そのまま継続して、人気です。私も来たら、どこを回ろうかと漠然とですが、動物園オリエンテーリングみたいなものは、お金がかからずできると思うので、それを1冊ずつ配って、判こを押すところだけをつくれれば、すごく楽しいのではないかと思います。

○石川委員 子どもはスタンプが好きなのです。

○野村委員 日本人はまじめだから、全部に行こうとすごく頑張って歩くし、その中に、ここは撮影スポットと書いてあると、モチベーションがもう一つ上がるような気がします。

○金子委員長 ほかはいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 それでは、議題の最後になりますが、新着動物等について、よろしく願いいたします。

○事務局（柴田飼育展示課長） 資料5になります。

まず、主な新着動物、出産の状況をご報告いたします。

2月10日に、シマフクロウのクック、雄2歳になりますが、釧路の動物園より来園しています。これは、釧路市動物園で飼育しています希少なシマフクロウですが、旭山動物園と円山動物園に1羽ずつ分散して、感染症のリスクを回避するという観点で、分散飼育計画の一環で来てくれているものです。今、野生復帰施設で、毎週土曜日にガイドツアーをしておりませんが、ここでごらんいただくことができます。

3月26日には、牛の仲間ですが、アフリカの動物のエランドのラッシュが産出しております。子どもは雄でございました。

4月12日には、オオワシのひなが2羽確認されております。昨年も1羽生まれましたが、ことしも順調に生育している様子が見られています。

4月26日には、ゼニガタアザラシのジージーという母親が産出しております。ジージーの出産は5回目になります。昨年は死産でございましたけれども、ことしは順調な出産で、ちょうどゴールデンウィークのころにたくさんの皆様に子どもを見ていただくことができた状況でございます。

4月21日から最近まで、リスザル5頭が産出しております。既にリスザルドームでお母さんにしがみついている赤ちゃんをごらんいただくことができます。子どもたちには大変人気です。

次に、主な転出動物、死亡の状況でございます。

1月22日に、国内希少種のイヌワシの雄が死亡しております。原因は、他の動物園から新たに雌を導入しまして、同居を始めたところ、雄が驚いて、おりに衝突したようで、頸椎を損傷し、残念ながら、死亡しております。同居のタイミングとしては、大変よい状況であったのですけれども、雄が余りにも高齢だったということもあって、もしかしたら相性が合わなかったのかもしれない。

それから、1月26日に、ゴマフアザラシのキカナイが死亡しております。足にけがを負いまして、外科的な治療ということで麻酔をいたしましたが、循環不全を起こして、死亡しております。麻酔の技術をもっと高めなければならないということで、非常に残念に思っているところでございます。

2月9日には、アムールトラのリングを釧路動物園に返却しております。リングは雄ですが、現在、当園におりますアイとの同居、繁殖を試みたのですけれども、2冬が過ぎました。交尾活動はあったのですが、うまくいかず、返却の時期を迎えてしまったところでございます。

2月20日には、ホッキョクグマのアイラが1歳を超えて十分成長いたしましたので、ララの次の繁殖のために、母親からひとり立ちいたしまして、帯広動物園にお預けしてい

るところでございます。

4月17日には、大変大きなヘビでございますが、ベーレンパイソンが亡くなっており
ます。

4月23日に、レッサーパンダのリリィは、父親に当たるセイタが長野県の茶臼山動物
園の個体、母親が埼玉県のかども動物園の所有になっておりまして、子どもであるリリィ
は埼玉県の所有になりまして、返却の時期を迎え、お送りしています。

5月17日には、トドのラーズが、ふくしま海洋科学館、通称アクアマリンふくしまで
ございますが、いわき市にある大変大きな水族館で、震災の後、施設の一部は改修が終わ
ったということで、ラーズを向こうの雄と一緒にするというので、繁殖目的で貸し出し
ております。

主な新着の一番最後の5月21日、本日ですけれども、朝、ダイアナモンキーが出産し
ておりまして、もう既に来園者にご覧いただいているところでございます。

以上でございます。

○金子委員長 ありがとうございます。

この件に関しまして、何かございますでしょうか。

○中山委員 これは、ホームページなどで見られるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） この資料は、全部を公開しております。また、出産したり
すると、基本的には、マスコミ各社に動物園ニュースを出していきます。昨年度は、1
50本ぐらいをマスコミに情報として流しました。それが、先ほど申し上げた、お金をか
けないで宣伝する一番の方法です。

○中山委員 なぜか見ていない……。

○事務局（影山経営管理課長） それは、記事になっていないものもたくさんあるという
ことだと思います。ただ、ホームページも使っていますし、いろいろなところに出してお
ります。

○小山委員 これだけたくさんのベビーが生まれると、Y o u T u b eで見られるように
したらいいですね。

○事務局（影山経営管理課長） エランドのラッシュも、出産した当日に、Y o u T u b
eで配信しています。

○小山委員 定期的に、今日の何とかと、代表的な赤ん坊の生育状況を常に見られるよう
になったら、一つの人気になるのではないかと思いました。

○中山委員 再生は結構されているのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 残念ながら、余りありません。見せ方なり出し方が悪い
のかもしれませんが。

○金子委員長 リアルタイムのものはないのですね。

○事務局（影山経営管理課長） ないです。日々、更新しているものはありません。

○小山委員 ユーストリームの中では、動物の定点というか、24時間というものが結構

はやっていますね。あれは、ホームページに契約上、差し込むことは可能だから、24時間ですと流すのもおもしろいかもしれませんね。

○事務局（影山経営管理課長） それは、原田顧問から強く言われていたことでございます。

○原田顧問 6年間、言い続けておりました。

○石川委員 オラウータンも一時期やっていましたね。あれは、アニマルファミリーのときでしたか。

○事務局（柴田飼育展示課長） それが、ご提案があって、試行的にやったものです。

○原田顧問 100人ほどのモニターを設定して、モデル的にやったものです。

○石川委員 そのときに参加していたのですけれども、意外と難しいのです。カメラのところにいないときが多くて、今日もいない、今日もいないとなったのです。ドキドキ体験メニューででき上がったものがありますが、あれは何回も見えています。ちゃんと編集して、見やすく、わかりやすくなっています。ですから、必ずしもリアルタイムでなくてもいいのではないかと思うのです。リアルタイムで見られないのだったら、見えているちゃんとした画像が常に見られるものが必要ではないでしょうか。

○野村委員 余り動かないものをやったらどうでしょうか。必ず見えるものです。例えば、トカゲなどですね。マニアックな人は、1時間前よりちょっとだけ移動しているとか、それは流しやすいですよ。カメラも一つでいいと思います。

○小山委員 教えてほしいのですけれども、繁殖のための計画みたいなものでホッキョクグマをいろいろと動かしていますね。アイラは、預託となっていますけれども、所有権は円山動物園なのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） はい。

○小山委員 いつか戻ってくるのですか。そういうものでもないのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 基本的には、母親が出産、繁殖する間は戻ってこないことになると思います。成長すれば、ペアリングをさせたいとは思っております。

○小山委員 所有権は円山動物園にあっても、アイラはこれから道内あちこちを回る可能性があるということですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） どこにということはまだ全く決まっておりませんが、そういうことになります。所有権についても、いい行き先があれば、検討していくことになります。

○小山委員 せっかくこうやって名前をつけると、アイラは円山動物園の人気者になりますね。それが行ってしまうと、アイラという名前が消えてしまって、寂しいなと思うのです。だから、円山動物園のアイラは今こうやっていますとか、どういうふうに戻って行って、どうするのかというような、行ってしまったらそれでおしまいではないようにして、お客さんの中で動物に対する感情移入ができる方がいいのかなと思いました。

○橋本委員 生まれた子の名前は、だれが決めるのですか。公募か何かをしているのです

か。

○事務局（柴田飼育展示課長） 今回のアイラは公募でございます。

○橋本委員 一般の方ですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） こちらで候補を幾つか出しまして、投票で、園に来られた方をお願いしております。

○橋本委員 企業に命名権が与えられるということではないのですか。お金に変えようと思えば、幾らでもできると思うのです。

○石川委員 小樽水族館では、テレビに出ている人たちが命名して、僕たちが名前をつけましたというようなことをしているところもありましたね。

○橋本委員 どこだったか忘れたのですが、キャラクターを絵にして、名前と一緒にして、その著作権をその企業が1年間使えるということをやると、結構な金額なのです。1年間の著作権を貸与というやり方もあったものですから、今、ふとそれを思い出しました。

それから、今お話しされている中で、顧客対象が明確になっていないと思いました。戦略は、それぞれきちんと分散して分けなければならないのです。よく商売でもやりますが、例えば、新規顧客を集めるためのメニューとか、リピーターにもう一度来てもらうために、あるいは思い出してもらうためのメニューとか、スーパーカスタマー、いわゆる最高顧客と言うのですけれども、石川委員などはそうだと思うのですが、そういった方に対するメニューはそれぞれ違うと思うのです。

今、動物園で一番引き上げなければならないのは、新規顧客というよりも、リピーターのリピート回数をもう少し増やすことなのだろうとイメージします。例えば、新規顧客開拓をするときにどうすればいいかという、先ほど、ビデオの話などがいろいろ出ていましたけれども、最初から動物園に興味のない人は、見ることもありません。ですから、それは1回はすっぱりあきらめるということを考えると、リピーターをどれだけ増やすかだと思うのです。動物園という文字が出たときに少しでも興味を持ちそうな人たちを対象にするとしたら、やり方もいろいろあると思います。

もちろん、動物園も一つのお店とすると、商品がよくなければ来ません。その商品に話題性がなければ来ないというのは、子どもが生まれたということもあるでしょう。しかしながら、そういう話題が全くないときに、どうやってリピーター客に思い出させるかという、よく言う支配戦略みたいなものしかないのです。

例えば、見上園長は交通局から来られたのですね。そのネットワークを使うのです。先ほどちらっと見たのですけれども、オフィシャルショップにマークがありますね。あれはオフィシャルショップだけのマークですね。動物園のマークはどうでしたか。

○事務局（影山経営管理課長） 30周年記念で公募したマークがあります。

○橋本委員 それは、どういったところに提示しているのですか。

○事務局（影山経営管理課長） 正門に大きくあります。

○橋本委員 そういうものは、ステッカーなどをつくって、それこそ、見上園長のネット

ワークで、地下鉄の1車両に3枚ぐらいはステッカーを張るなどして、まさにC Iですけども、忘れたときにぱっと思い出させるようなグッズを豊富に、札幌市の力を使って、ばらまいていくことで、少なくともリピーター客に何度も思い出させる効果はあると思います。

まず、来園者数を増やすときの対象として、それが一番最初だと思いました。

好き勝手なことを言って帰りますけれども、申し訳ありません。退室させていただきます。

○金子委員長 どうもありがとうございました。

大変貴重なご意見をいただいたかと思えます。

ほかはどうでしょうか。時間はもう少しございます。

○中山委員 Y o u T u b e、F a c e b o o k 検証中とありますが、これは何をやっているのですか。情報の広がりを検証中とありますね。

○事務局（影山経営管理課長） 組織として検証ということはあり得ないので、個人個人で取り組みを進めている段階です。情報を流してみても、どういうふうに広がっていくのかということです。

○中山委員 今、橋本委員がおっしゃっていたように、もともと興味がない人に見せるためには、結構奇抜な、話題になるような映像を見せて、円山動物園の映像はすごいという感じで話題になるような映像ですね。動物のストレスもあると思うので、難しいかとは思いますが、うのですけれどもね。

○事務局（影山経営管理課長） きょうも、金環日食ということで、職員は、朝6時から来て、動物が変わった行動をしないか、一生懸命撮影していたのですが、結果的には特徴的なものはありませんでした。ただ、いろいろな努力はしております。

○中山委員 きょうは金環日食だから、何かおもしろいことをしないかと思って朝からやっていたけれども、何もなかったという映像を上げたらいいと思うのです。スタッフの方はいろいろなことをやっているのだという、動物園の取り組みのおもしろさを含めて、むだに終わりましたということでもいいと思うのです。それこそ、F a c e b o o k や T w i t t e r は、そういうことでおもしろいと食いつくのです。どこに食いつくかわからないので、検証中であれば、いろいろ試してみるのはとてもいいと思うのです。

F a c e b o o k でしか見られないものがあるから、みんな来ると思うのです。これが見られるから来てくださいますということもとても楽しいと思うのですが、そこに行くからおもしろい。動物園には余り興味はないけれども、このF a c e b o o k ページはおもしろいからたまに来ていたという感じのコンテンツもあっていいのではないかと思います。

○事務局（影山経営管理課長） わかりました。いろいろとやってみます。

○金子委員長 私も、F a c e b o o k と T w i t t e r は、お金の割に効果があると思います。実は、ついこの間に、平取で山菜てんぷらパーティーがあったのです。僕の知り合いがフェアトレードのカフェをやっているのですが、いつもは、来ませんかとすごく声

をかけていたのです。それは、バスをチャーターして、連れて行くのです。今回は、Facebookにぽんとやっただけで、すぐに集まって、ほかに宣伝することができなくなってしまったと言っていました。やはり、そういうものに興味、関心のある人がFacebookページに登録するので、みんな情報が配信されるとすぐに反応するのです。

動物園の場合も、そういう形で公開していくのはいいと思います。ホームページを知らないでぱっと見に来る人を吸い上げるよりは、Facebookのように、ちゃんと登録している人にきちんと情報を配信していけば、物すごく効果があるのではないかと思うのです。

○中山委員 また、ホームページに来て、その情報のところをクリックして入っていくよりも、時系列に沿って見たい記事がざっと見られるのはとてもメリットだと思います。悲しいお知らせも、ただ文字で見るよりは、こういう事情で亡くなってしまいました、次からはこういうことに気をつけて、もっと長生きさせられたら、気をつけられたらというスタッフの悲しい思いなどもつづっていくようにしたらと思うのです。もちろん、賛否両論が来るとは思いますけれども、それこそが話題なので、共感を呼んだり、ほかの動物園のすごいリピーターの人がどこどこ動物園はこんなものだと言ってきたり、そういう話題でシェアされることはあると思うのです。

ですから、今の動物園をそのまま見ていくだけではなくて、そこだけで話題になるものもアップしていったらいいのではないかと思います。

ベレンパイソンなど、見た目はわからないのですけれども、あれば見てしまいますね。すごく大きなヘビが死んだのだなということだけでも、おもしろいのではないかと思うのです。死んだのに、おもしろいも何もないのですけれども、亡くなった記事ですけれども、そんなヘビがいるのだという興味にもつながると思うのです。

○石川委員 私の家では、何かが死ぬと、ほかの動物が死んだら困るからといって行くということもあるのです。ですから、死んだ記事もすごく大事です。トドは1頭しかいなかったのですが、いつか戻ってくるのですか。うちの子どもはトドが好きだったのです。

○事務局（柴田飼育展示課長） 向こうで繁殖して……。

○石川委員 2年ぐらいの契約なのでしょう。

○事務局（柴田飼育展示課長） 基本は3年ですけれども、向こうで家族をつくってもらいたいと思っておりますので。

○石川委員 うまく繁殖ができればすぐに帰ってこられるけれども、出張みたいなものですね。

○事務局（柴田飼育展示課長） 今のところ、向こうで住んでもらおうと思っております。特に戻ってきてもらうことは考えておりません。

○中山委員 それは、画像などはもらえないのですか。

○事務局（影山経営管理課長） もらえます。

無事に着きましたということは、ホームページで掲載しております。

○石川委員 あの場所はどうするのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 今のところ、アザラシを分ける施設にできたらと思っております。まだ未定です。

○中山委員 ホームページにあるのに、拡散できていないのですね。

○牧野委員 一つ聞きたいのですが、この間の新聞で、旭山動物園で象を10頭ぐらいという記事が載っていました。札幌では、1頭、2頭、3頭入れるということを検討していますね。あんな記事がぼんと出て、片や10頭です。動物園の規模からいったら、こちらの方が大きいと聞いていますが、旭山動物園では10頭という花火を打ち上げていることについて、どういう感じなのですか。

○事務局（柴田飼育展示課長） 旭山動物園の記事は、ボルネオの方の保護ということで、あちらにそういうセンターをつくるということです。

○牧野委員 こちらに持ってくるということではないのですね。

○事務局（影山経営管理課長） 森を追われた象を保護するための大きな檻をつくるということです。

○金子委員長 ほかによろしいでしょうか。

○牧野委員 動物とは関係ないのですけれども、私は、円山西町という町内会で、毎朝、往復1時間をかけて、円山動物園のわきをずっと歩いています。特に、ご存じのとおり、樹木が多いのですが、何年かずっと見ていて心配していたのは、動物園のわきのニセアカシアの木がすごく伸びていました。それは、去年の秋にばっさりやってくれたので、一安心しておりますが、今、フェンスの直しにかかっています。そんなことで、すごくいいことをやってくれたと思っていました。

同時に、このゴールデンウィーク前に、警察官とお話をいたしました。去年もそうだったのですけれども、信号のない横断歩道がございますね。正面にも一つ信号があつて、もう一つは信号がありません。それから、坂下グラウンドのところですよ。その横断歩道も8割から9割は消えてしまっているのです。去年、西警察に電話をしても予算がどうのこうのということで、ほとんど手をつけずに終わったのです。ことしは、だめもとで言ってやれと思ったのです。円山動物園はこれからシーズンで、不特定多数の方が来られます。不案内の人も来られます。そういうところで、横断歩道がいまだに舗装されておらず、8割から9割は消えているという話はないということを使ったのです。案の定、予算がどうのこうの、順番がどうのこうのということでした。それは、中央区の管轄の話ですから、中央区の中でも優先順位があるでしょうと。ただ、動物園は、札幌市の中でも、これからシーズンを迎えるに当たっては、そういうところまで目配りしていただきたいというお話をしたのです。そうしたら、2日後にすぐに電話が来ました。

とりあえず、話は上に通しましたと。通しただけですかと言ったら、いつになるかはわかりません。けれども、話は通しましたということでした。そして、その2日後に、すぐ横断歩道の舗装をしてくれました。しかし、手押し信号のところ1カ所だけがついこ

の間まで残っていました。それ以外は全部横断歩道ができていました。そして、手押し信号のところでもできました。多分、ここ1日、2日ぐらい前だと思います。

もう一つは、私どものところに円山西町児童会館があるのですけれども、そこは手押し信号ですけれども、そこ1カ所だけが残っているのです。

何を言いたいかというと、優先順位はあるのですけれども、皆さんも横断歩道とセンターラインの管轄はわかりますか。センターラインは、市の土木部です。横断歩道は警察の管轄です。ですから、イコールにならないわけです。センターラインは終わりました。横断歩道は残っていますが、これは警察の管轄です。こんなような仕組みです。私もいろいろと聞いてみて、何でそういう区分けをするのか、非常に効率の悪い話ですね。とにかく、センターラインをやったときに、一緒に横断歩道もやってしまえばいい話ですからね。

そのようなことも今回は迅速にやってくれたので、そんなことも皆さんの地域の中でも発生していると思うのです。私から言わせれば、ついでに全部をやってしまえばいいと思うのです。警察が、ここは横断歩道と決めたら、それでいいわけですからね。あとは、道なのか、国なのか、私はそこまで調べていませんが、そんなことがありました。

とりあえず、動物園かいわいの歩道はきちんとなっております。

○野村委員 ゴールデンウィーク中、ことしは雨が多かったので、そうでもなかったのですけれども、駐車場でいつも渋滞になります。これは、準備しておかないと難しいのでしようけれども、最後尾というものはありますか。

○事務局（影山経営管理課長） 作っております。

○石川委員 最後尾に3時間待ちとありまして、あれでUターンです。

○野村委員 いつだったか、動物園から南1条通に続くところで、動物園に入る人なのか、通り抜ける人なのか、いつもわからないのです。通り抜ける人も渋滞に並んでしまうのです。そこに案内というか……。

○事務局（影山経営管理課長） 今年は、そこまでは行っていません。競技場のあたりまでしか行きませんでした。ただ、ひょっとしたら、北海道神宮の渋滞もあるので、そちらかもしれないですね。

それは、わかりづらいという苦情はいただいております。

○野村委員 動物園関係ではないのに、渋滞していると思って、結局並んでしまって、また渋滞していくという格好なのです。

○事務局（影山経営管理課長） 一応、私どもでは最後尾という看板を必ず持たせるようにしております。

○中山委員 雨に弱いのは当然だと思うのですが、アフリカゾーン建設に向けて、できるだけ雨でも平気な施設にしていくという計画はあるのですか。

○事務局（影山経営管理課長） そうですね。雨と雪に強い施設ということで、例えば、屋外施設も中から見えるという形で、暖かいところから寒いところなり、広いスペースで動物たちの動く姿を見られるという工夫はしております。それから、猿山のように、中か

から見られるものですね。

○中山委員 円山動物園は雨でも平気なところということがもっと定着すれば、雨での激減ぶりが、そもそも出たくないというところもあるのですが、少しはましになるかと思えます。

また、一番下のシニア層のターゲットで、風のガーデンのようというところ。関係ないかもしれませんが、私が個人的に見せてもらったもののように、シニアの方々が生き生きと、先生として、主催としてできるワークショップみたいなものをもっとやってはどうかと思います。無料か、有料かは要検討だと思うのですが、ここに子どもたちも入って、遊びに行くような、ちょっとした児童会館みたいな、動物園に行くのだけれども、メインはそういうワークショップであると。いつも何かやっているから遊びに行けるというイメージもつけておくと、シニアの方も子どもも両方いい関係になる取り組みになるのではないかと思いました。

○金子委員長 ありがとうございます。

大分いい時間になりましたので、全体を通じて何かございましたら、お願いしたいと思えます。

○原田顧問 先ほどからいろいろご意見が出ていますけれども、デジタル化の話がかなり出ておりました。これをぜひ推進していただきたいと思えます。これは、足を引っ張るというよりも、それを見ても大体は満足しないので、実際に見に行こう、来週に見に行こうという声上がるに違いないと思うのです。それから、円山動物園は、外から来た人たちにとっても、あっ、もうそういう時期か、あのイベントを見に行こうではないかというように、リピーターをふやしていくという点でも非常に有効ではないかと思えます。やはり、行ってみないとわからないということと、行く時期を選べるデジタル情報が流れているというのは非常にいいことではないかと思えますので、今年度は、スポンサー、あるいは寄附金などでもうまく見つけて、実行していただきたいというふうに思っております。

○金子委員長 どうもありがとうございます。

ぜひ実現してほしいと思えます。

そのほかはよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○金子委員長 どうもありがとうございます。

最後に、その他で何かございましたら、お願いいたします。

○事務局(見上円山動物園長) 特にございませぬ。

○金子委員長 それでは、事務局にお返しいたします。

4. 閉 会

○事務局(見上円山動物園長) 次回の会議は、8月上旬あたりを予定してございます。具体的な日程につきましては、別途ご連絡させていただきたいと思えます。先ほどもちょ

っとお話しさせていただきましたけれども、次回は、基本計画案の中身についてご説明させていただきますと考えております。

本日は、お忙しい中をご出席いただきまして、長時間にわたり、本当にありがとうございました。

以 上